

## 【60歳代】

この時代になると、線描は硬く、荒々しくなってきました。それを、「新たな展開」と見る一方、70歳前の等伯が高所より落ちて右手が使えなくなったという記録（『医学天正記』）から、「晩年の法眼落款作品は弟子が描いた」とする研究者もいます。

しかし、長谷川派の画家は何十人もいたと考えられ、狩野派とまではいかないまでも工房制作があつて当然とも言えるのです。

沢庵禅師は、『結繩録』に次のような事を書いていきます。「ある人は、虎を直に見た人ほど上手く虎を描けるだろうと述べた。長谷川等伯という画師は、実際に見たからと言って上手とは限らないと言った事は知ら

## 長谷川等伯 年表

西暦	年号	年齢	長谷川等伯関連事項
1539	天文8	1	長谷川等伯、能登国七尾に生まれる 若い頃の名は信春、又四郎、帯刀など
1563	永禄6	25	この頃「日乗上人像」（羽咋市・妙成寺蔵） 「十二天図」（羽咋市・正覚院蔵） 「日蓮聖人像」「鬼子母神・十羅刹女図」「釈迦・多宝仏図」（高岡市・大法寺蔵、全て重文）
1564	永禄7	25	「八臂弁財天十五童子図」（個人蔵） 木彫「日蓮聖人坐像」（七尾市・本延寺蔵）彩色 この頃「善女龍王図」（石川県七尾美術館蔵）
1565	永禄8	27	「日蓮聖人像」（七尾市・寶相寺蔵）
1566	永禄9	28	「三十番神図」（高岡市・大法寺蔵、重文）
1568	永禄11	30	「涅槃図」（羽咋市・妙成寺蔵） 長男・長谷川久蔵（きゅうそう）生まれる 「鬼子母神・十羅刹女図」（富山市・妙傳寺蔵）
1571	元亀2	33	養父・宗清（道浄）、養母・妙相没（共に享年不詳）、この頃に上洛
1572	元亀3	34	「日晷（にちぎょう）上人像」（京都市・本法寺蔵、重文） この頃「牧馬図屏風」（東京国立博物館蔵）
1570年代頃	元龜～天正初年頃		この頃「愛宕権現図」（石川県七尾美術館蔵） この頃「伝名和長年像」（東京国立博物館蔵、重文） この頃「武田信玄像」（高野山・成慶院蔵、重文）
1579	天正7	41	妻・妙清没（享年不詳） この頃「花鳥図屏風」（岡山県・妙覚寺蔵、重文） この頃「陳希美誦図」（石川県七尾美術館蔵）
1583	天正11	45	大徳寺総見院「水墨山水、松猿、竹鶴、芦雁図」（現存せず） 「大徳寺山門天井画・柱絵」（京都市・大徳寺蔵、重文） 現存する唯一の「等白」記名作品
1589	天正17	51	この頃名を等伯と改める 大徳寺三玄院「山水図襖」（現 圓徳院および築家蔵、重文） 妙清を後妻に迎える この頃「瀟湘八景図屏風」（東京国立博物館蔵）
1590	天正18	52	御所造営に際し、対屋の障壁面制作を巡り狩野永徳一門と対立 この頃「竹林猿猴図屏風」（京都市・相國寺蔵、重文） 三男・長谷川宗也生まれる
1591	天正19	53	この頃「竹鶴図屏風」（東京都・出光美術館蔵）
1592	文禄元	54	この頃、本法寺第十世住職・日通上人著『等伯画説』（京都市・本法寺蔵、重文）
1593	文禄2	55	等伯一門「祥雲寺障壁画」（現 京都市・智積院蔵、国宝） この頃「松に猿・柳に白鶴図屏風」（東京都・出光美術館蔵） 長谷川久蔵没（享年26歳）、四男・長谷川左近生まれる
1594	文禄3	56	「春屋宗園像」（京都市・三玄院蔵） この頃「松林図屏風」（東京国立博物館蔵、国宝）
1595	文禄4	57	「利休居士像」（京都市・不審庵蔵、重文） この頃「樹下仙山図屏風」（京都市・壬生寺蔵、重文） 等伯一門、この頃「妙蓮寺障壁画」（京都市・妙蓮寺蔵、重文）
1598	慶長3	60	「妙法尼像」（京都市・本法寺蔵、重文） この頃「枯木猿猴図」（京都市・泉泉庵蔵、重文）
1599	慶長4	61	「仏涅槃図」（京都市・本法寺蔵、重文）を描き、宮中に持参したのち、本法寺に寄進する この頃本法寺本堂「天井画、襖絵」（現存せず） 妙心寺隣華院「山水図襖」（京都市・隣華院蔵、重文） この頃「波濤図」（京都市・永観堂禅林寺蔵、重文） この頃から「自雪舟五代」を自称する？
1601	慶長6	63	大徳寺真珠庵「商山四皓図襖」「娘子猪頭図襖」（京都市・真珠庵蔵、重文）
1602	慶長7	64	南禅寺天授庵「商山四皓図襖」「禅機図」など（京都市・天授庵蔵、重文） 大徳寺「高桐院障壁画」（現存せず）
1603	慶長8	65	大徳寺「金龍院襖絵」（現存せず） 法橋となり、その礼に屏風一雙などを宮中へ献上する・翌年法眼となる？ 本法寺天井画制作中に転落、右手不自由となる？ 後妻・妙清没（享年45歳）
1604	慶長9	66	
1606	慶長11	68	「龍虎図屏風」（アメリカ・ボストン美術館蔵） この頃「鳥籠図屏風」（千葉県・川村記念美術館蔵、重文）
1607	慶長12	69	「竹林七賢図屏風」（京都市・両足院蔵） 「鳥巢図屏風」（大阪市立美術館蔵）
1608	慶長13	70	日通上人没（享年58歳）・「日通上人像」（京都市・本法寺蔵、重文） 「弁慶・昌俊図絵馬」（京都市・北野天満宮蔵、重文） 大徳寺「龍光院襖絵」（現存せず）
1609	慶長14	71	「玉甫紹琮像」（京都市・高桐院蔵） 「十六羅漢図屏風」（京都市・智積院蔵）
1610	慶長15	72	二男・長谷川宗宅を伴い、江戸へ下向する 長谷川等伯没（享年72歳）

れている。そこまで利発な老人とも見えないけれど、その道に心を尽くした人の発言だけはある。「これが、晩年の等伯を一番よく表した言葉ではないかと思われまます。」

記録によれば、72歳の時に仕事で江戸に呼ばれ、江戸到着の2日後に逝去したと伝えられています。

## 画聖 等伯と七尾

### 【七尾法華】

日蓮の弟子・日像の布教により、法華宗は京都の町衆と結びつきをもつ商人層や、戦国城下七尾に住む武士層に広まっていきました。

等伯の生家、養子先は共に法華宗で、能登時代には法華宗関係の作品

を多く描いていており、等伯も熱心な信者であったと見られています。

京都に本山を持つ法華寺院の力添えは、当時30歳を過ぎて京都を目指す等伯にとって非常に心強いものであつたと考えられます。

### 【畠山文化】

畠山時代には、京都の文化人や高僧たちが七尾を訪れるなど、非常に高い文化水準を誇っていたと思われます。当時、七尾を訪れた京都の禅僧・彭叙守仙が記した『独楽亭記』によって、城下町の繁栄ぶりもわかっていきます。

また、等伯の祖父も、当時すでに京都を行き来していたことが知られており（『等伯画説』）、染物を営む長谷川家も恐らくこの城下町にあ

り、経済的に裕福な家柄であつたと考えられるのです。

京雅の色濃い、華やかな畠山文化その城下町で育つた等伯：また、七尾法華のバックアップと信仰があつてこそ、後に名作を生み出す等伯が存在したのではないのでしょうか。

### 国宝「松林図屏風」七尾特別公開 記念フォーラム

### 五木寛之と辻口博啓が語る「松林図」と等伯

開催日時：4月17日（日）

14:00～16:00

場所：七尾サンライズプラザ

大ホール（千人収容）

対象：一般（入場無料）